

# 週報

福岡中央  
ロータリークラブ

四つのテスト

1. 真実かどうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるかどうか

「UNITE FOR GOOD」  
2025-2026年度 国際ロータリー会長  
Francesco Arezzo

Rotary



よいことの  
ために  
手を取りあおう

Rotary

「少しの成長から始まります  
-1.01で成長、0.99で衰退-」  
国際ロータリー第2700地区  
2025-2026年度 ガバナー 濱野 良彦

「「PLUS」～少しの成長、そして確実な成長～」  
2025-2026年度 福岡中央ロータリークラブ  
会長 竹下 盛人 幹事 田中 明子

本日の例会 令和8年2月9日（第2138回）VOL.49 No.23

## 卓話

「マスメディアの現在地～選挙報道で見えること」  
合同会社hammar's 代表 浜崎正樹さん

平和構築と紛争予防月間

今後の  
例会予定

- 2月16日(月) 卓話 (株)ホーホウ代表取締役 木藤亮太さん ※会場は2階プレジール
- 2月23日(月) 休会
- 3月 2日(月) 卓話 自分ゴキゲン研究所代表 百田美砂さん

「雪の高野山 御影堂（高野山壇上伽藍）」



に光の山令  
に登った時のものです。朝早くから、若い修行僧  
に刺激され  
て改めて自分を見直す時間となりました。  
山手誠之助

## 前週例会の記録(2月2日)

### 出席報告

前回例会 2月2日	前々回例会 1月26日
会員数 53名	会員数 53名
出席会員 45名	出席会員 45名
ビジター他 2名	修正 1名
合計 47名	免除 0名
出席率 84.91%	修正後出席率 86.79%

### 会長の時間

### 竹下 盛人会長

前回1/21(水)の「福岡エアポートロータリークラブ加盟認証状伝達式」へ参加した様子を報告させて頂きましたが、その時の引き出物の中に3冊の漫画が入っていました。今回はその中の、知ってそうで知らない「ポール・ハリス物語」を紹介すると共に、同席頂いた3年前の第4Gガバナー補佐 福岡南RC安部光壱さんから、「ガバナー補佐日記」という1冊の本が送られてきましたので併せて紹介させて頂きます(笑)。漫画を読み、改めてロータリークラブ創立の時代背景や設立の動機は何だったんだろう?に、興味が湧いたからです。

又、安部さんの本にも面白いワードが多くあります。例えば、ロータリアンの行動指針に「4つのテスト」が有る。それより大事なのは「自分の為になるかどうか」だろう~、とか、「ロータリー活動とは仕事の片手間にやるもんだ」とか…。ユニークですが妙に腹落ちします(笑)。さて、ロータリークラブですが、皆さんご存知の通り1905年、今から120年前アメリカシカゴでポールハリス弁護士を中心とした同志4人でロータリークラブが設立されます。

安部さん曰く、「ポール・ハリス」と云う名前は「ポール・マッカートニー」と「ジョージ・ハリソン・リソン」を足して2で割れば覚えろーとの事です(笑)。

因みに、発起人4人が其々に友人を誘い入れ、メンバーが増えていく毎に「集い」は、会員の店や事務所を順に回る事としました。是が「ロータリー」の語源となったそうです。

ではなぜロータリーが生まれたか?その頃のシカゴは、差別、暴力、無法の時代、荒廃した街でした。「なんとかしなければならない」と思った4人組、じゃあどうする?「そうだ!何をしなくてはいけないか、毎週集まって考えよう」とても呑気な集団ですが、それが、ロータリーの始まりとなる訳です。しかしその後、120年間で世界120万人を要する世界的組織

団体に成長するのです。

では、なぜ当時のシカゴがそれほど荒廃したのでしょうか。「疑問1」が生じます。それは、「鉄道」による「急速な都市化」と、人々の「孤立」です。シカゴはアメリカ中西部の中心に位置し、鉄道網が東西南北へ伸びる「ハブ都市」として発展、19世紀末から20世紀初頭には、全米の鉄道網がシカゴで交差し、五大湖とミシシッピ川流域を結ぶ、物流の一大拠点となり、「人・物・資本」が集中しました。そこに労働力としての「移民」が大量流入される。勿論、金融商業も発展します。鉄道産業の発展に伴い、穀物取引所や銀行保険など金融関連業も大きく成長します。で、どうなった?

急速な都市化により、人々の繋がりが希薄となり、孤独や信頼の欠如が、社会問題となります。所謂、「都市化と孤独」です。自由主義経済の過熱により、過当競争・誇大広告・不正行為が横行し、商道徳が著しく低下します。又、利益追求が優先され、誠実さや公正さといった職業倫理が軽視されていきました。そんな社会背景を受け、確かに、それじゃあ~つまらん。と、先出の4人がロータリーを作った。

では、なぜ経済人に認知され、更に、社会に受け入れられたのか?「疑問2」が生じます。

1.急成長都市シカゴで、信頼関係が求められていた。(都市には田舎から人が出て来る、人は常に孤独を抱え絆を求めていた、だから経済活動における信用と信頼は、絶対的な必要性があった。)

2.異なる職業の専門家が協力する場が必要だった。(仕事は1人ではできない。異業種のネットワークが必要。又、相互理解を深める為の親睦が絆を深めた。)

3.商取引で得られた利益を社会に還元する奉仕の精神。(弱者を支援し、社会を改善しようとする理念が社会に受け入れられた。)

4.何よりも「ポール・ハリス」の理念と情熱とリーダーシップが人々を結びつけ、組織としての形を整える推進力となった。

なるほど、理解ができた。しかし、「疑問3」が生じる。何故?120年間の間に120万人の会員を要する組織団体に成長したのか。荒廃した社会に秩序と倫理、道徳を根付かせたロータリーだが、逆に言えばこの120年間、差別、暴力、無法の、荒廃した国や地域が絶えなかつたのではないか?

確かに、現在進行形で「ロシアとウクライナ」「アメリカとベネゼイラ」「イスラエルとガザ、レバノン、ヨルダン川武装勢力」...etc

ロータリーの「超我の奉仕」は、人類が続く限り、必要とされ、繋ぐべき「人としての活動」かもしれません。以上「会長の時間」でした。